

スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立

〔分野〕	鳥獣害
〔公募研究課題〕	(5) ジビエ利用の推進に資する鳥獣対策技術の開発
〔研究代表機関〕	長崎県農山村対策室(被害対策に資する捕獲・利活用推進コンソーシアム)
〔参画研究機関〕	R・F・J(株)、(独)鳥羽商船高等専門学校、(国)宇都宮大学、(国)岩手大学、(学)千里金蘭大学、(株)ファスマック、(株)ニッポンジーン、(研)農研機構東北農業研究センター・中央農業研究センター、(公)宮城大学、静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター、(株)一成、(株)スカイシーカー、(公)兵庫県立大学、長崎県農山村対策室、(研)森林研究・整備機構森林総合研究所、(学)東京理科大学
(普及担当機関)	長崎県県央振興局・五島振興局、兵庫県森林動物研究センター
(研究管理運営機関)	(公社)農林水産・食品産業技術振興協会
〔研究・実証地区〕	栃木県那珂川町、静岡県伊豆市、三重県伊賀市、兵庫県宍粟市、長崎県諫早市・長崎市・五島市

I 地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

長崎県等において、農業の成長産業化に向けて鳥獣被害対策の強化と地域資源(イノシシ・ニホンジカ)の食肉等への有効活用を図る。そのため、捕獲個体の搬出作業負担を3割以上省力化し、食肉利用率を1割向上させる。

2. 研究の背景・課題

イノシシやニホンジカの捕獲強化に伴い、見回りや誘引などの作業負担が増加している。特に捕獲個体の搬出には多くの負担が生じるため、捕獲個体の7割が埋設されている。また、ジビエについては品質の安定や需要に併せた供給体制が構築されておらず、食肉利用は捕獲数全体の1割程度となっており、高品質のジビエ肉の生産や衛生的な安全確保が必要となっている。

II 研究の目標

- ・ 運搬用車両やウィンチ、アシストスーツ等による搬出支援技術の開発により、イノシシ、ニホンジカの捕獲個体の搬出作業負担を3割以上軽減する。
- ・ 捕獲状況等をリアルタイムで処理施設や飲食店に通知するシステムや簡易衛生検査キットの開発、食肉利用に適した捕獲処理技術の確立等により食肉利用率を1割向上させる。

III 研究計画の概要

1. ICTを活用したジビエツールの開発

捕獲個体の写真データから捕獲日時や捕獲場所を特定、自動推定した体長や体重などのデータを処理施設等とリアルタイムで共有するとともに、クラウド上で保存や解析ができる管理システムを開発する。

2. 捕獲と利活用に資する衛生検査システムの開発

国内外での発症例があり、かつ重篤な症状を引き起こす感染症および食中毒症を選定し、捕獲現場や解体処理現場でも簡単に検出検査が可能な機材システムを開発する。

3. 高品質ジビエ肉生産のための捕獲手法の確立

捕獲手法や止め刺し手法が異なるイノシシ・シカ肉の品質分析やジビエに関する生産地と消費地の意識調査などを行って、高品質のジビエ肉を生産するための捕獲・止め刺し手法の技術を確立する。

4. ドローンを活用した円滑な捕獲・利活用システムの開発

中山間地域および島嶼地域においてドローンを活用した見回りや誘引技術を確立するとともに、地域における鳥獣被害対策用ドローンのオペレーターを育成する。

5. スマート運搬技術の開発

捕獲個体の搬出負担を数値化して現状把握を行いながら、捕獲個体運搬用車両やアシストスーツ等の搬出支援技術を開発する。

